

たまねぎレポート【第441号】



令和6年7月27日

阪南青果株式会社

社内報

6月の天候は、気温は、北・東日本でかなり高かった。降水量は、北日本の太平洋側でかなり少なかった。一方、東日本の太平洋側と沖縄・奄美でかなり多かった。日照時間は、北・東日本の太平洋側と日本海側でかなり多かった。7月は、大雨による被害のほか、全国的に酷暑が続き、熱中症や作物の高温障害が心配されている。

気象庁の8～10月の3か月予報によると、8月は猛暑に警戒、秋も残暑が厳しい。太平洋側は秋の大雨にも注意。平均気温は、北日本で高い確率60%、東・西日本と沖縄・奄美で高い確率70%。降水量は、東・西日本の太平洋側と沖縄・奄美で平年並み亦は多い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本と沖縄・奄美

では、平年と同様に晴れの日が多い。

9月、北・東日本と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

10月、北・東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるが平年に比べ晴れの日が少ない。

野菜の市場概況

建値市場の6月の野菜の販売量は、197,462トン前年比94%(前月比97%)。平均単価はkg¥267前年比107%(前月比90%)。市場別には多少の差はあるが、総じては前年比で数量減の単価高であった。市場別の販売量の前年比と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比92%、平均単価はkg¥263前年比110%。東京市場の販売量は前年比93%、平均単価はkg¥282前年比106%。名古屋市場の販売量は前年比95%、平均単価はkg¥261前年比110%。大阪本場の販売量は前年比98%、平均単価はkg¥269前年比109%。福岡市場の販売量は前年比98%、平均単価はkg¥197前年比106%となっている。

東京都中央卸売市場6月の野菜の入荷量は107,359トン前年比93%、前月比(96%)。旬別の前年比では、上旬85%、中旬99%、下旬95%となっている。平均価格はkg¥282前年比106%(前月比90%)。旬別では、上旬¥298(前年比118%)、中旬¥288(同108%)、下旬¥259(同91%)となっている。主要15品目で入荷量が前年比増の品目は、サト

イモ・ナマシイタケが前年比107%、キャベツ・レタスが101%、など4品目。前年比減の品目は、バレイショが前年比75%、タマネギが78%、ニンジンが84%、ハクサイが89%、ピーマン・レタスが92%、など11品目。価格で前年比高は、バレイショがkg¥312で前年比203%、タマネギが¥162で169%、ニンジンがkg¥226で161%、トマトがkg¥335で114%、ハクサイがkg69で106%など7品目。前年比安は、キュウリがkg¥226で前年比79%、サトイモがkg¥554で84%、ネギがkg¥370で85%、キャベツがkg¥84で88%、レタスがkg¥126で92%など8品目となっている。

東京都中央卸売市場の6月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野菜総数	107,359	92.6	96.3	282	106.0	90.4
たまねぎ	7,462	77.8	72.4	162	168.5	131.7
キャベツ	14,451	101.3	98.3	84	88.3	49.4
はくさい	5,481	88.5	87.4	69	105.6	67.7
だいこん	6,521	95.1	89.5	92	99.3	66.7
にんじん	5,240	83.8	76.8	226	161.4	103.2
ばれいしょ	5,362	75.3	74.6	312	203.4	131.1
レタス	7,594	92.0	102.5	126	92.2	73.3
ねぎ	3,422	94.5	93.9	370	84.6	89.2
トマト	7,049	95.4	103.4	335	113.7	86.3
きゅうり	6,509	96.9	87.8	226	78.8	73.6
かぼちゃ	1,802	79.6	102.5	262	105.5	110.6
ながいも	722	104.3	100.8	383	87.2	100.8
れんこん	152	84.9	48.4	1,083	106.0	157.6
にんにく	136	68.5	63.3	1,049	128.2	94.7

玉葱の概況

需要(市場)の動き

建値(拠点)市場の6月の玉葱の販売量は18,599トンで前年比86%(前月比82%)、平均単価はkg¥152前年比124%(前月比128%)となっている。主力産地の佐賀・兵庫を始め中小産地の中晩生の作柄が総じて前年を下回り、出回り減となったことが大きく影響した。

6月の拠点市場別の玉葱販売量と単価は、札幌市場の販売量は1,340トン前年比69%、平均単価はkg¥163前年比150%。東京市場の販売量は7,462トン前年比78%、平均単価はkg¥162前年比169%。名古屋市場の販売量は4,656トン前年比90%、平均単価はkg¥162前年比171%。大阪本場の販売量は3,188トン前年比90%、平均単価はkg¥162前年比171%。福岡市場の販売量は1,953トン前年比112%、平均単価はkg¥111前年比125%となっている。

東京市場

東京都中央卸売市場の6月の玉葱の入荷販売量は7,462トン、前年比78%(前月比72%)。主産地は兵庫・佐賀で兵庫物が2,299トン前年比114%、占有率31%前年比10ポイントアップ。佐賀物が2,246トン前年比55%、占有率30%前年比13ポイントダウン。香川物が928トン前年比99%、占有率12%前年比2ポイントアップ。愛知物が285トン前年比83%、占有率4%。栃木物が255トン前年比67%。総平均価格はkg¥162前年比169%(前月比132%)。産地別では、兵庫物はkg¥191前年比181%。佐賀物はkg¥150前年比161%。香川物はkg¥173前年比18

1%。愛知物はkg ¥ 144前年比172%。栃木物はkg ¥ 141前年比191%。となっている。主産地の佐賀物の入荷が大幅減となり、品薄高が続いた。

7月に入り、主産地の佐賀・兵庫とも強気で入荷は少なく、産地追随型の相場展開となり、じり高傾向となった。佐賀物は、JAの除湿乾燥品の入荷が始まったが、品質的にはレギュラー品と大差はなく、クレームの発生も後を絶たず割高販売となった。昨今では、府県産は高値悩みで売れ行きは今ひとつである。いずれの市場も豊作情報の北海物の入荷を待望している。既に、今月25日販売からの入荷が見込まれているが、本格的な入荷は8月になる予想。

7月1日から20日までの玉葱販売量は、5,025トン前年比92%(前月比96%)、平均単価はkg ¥ 178前年比148%(前月比116%)。産地別に入荷量は愛知物は前年比増となっているが、その他の産地は主産地の佐賀を始め軒並みに大幅減となっている。産地別の販売量と単価は、兵庫物が2,324トンの入荷で前年比89%、平均単価はkg ¥ 191前年比155%。佐賀物は988トン前年比92%、平均単価はkg ¥ 184前年比141%。香川物は433トン前年比85%、平均単価はkg ¥ 182前年比153%。愛知物は244トン前年比128%、平均単価はkg ¥ 148前年比139%。となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の6月の玉葱販売量は4,656トン前年比109%(前月比110%)で前年比、前月比とも増となっている。主力は愛知物で数量は1,530トン前年比89%、占有率は33%で前年比8ポイント

ダウン。兵庫物は1,474トン前年比84%、占有率32%前年比6ポイントダウン。北海物は1,333トン前年比212%、占有率29%前年比3ポイントアップ。ニュージーランド物は103トン前年比154%占有率2%となっている。

7月になり、地場の愛知物が終盤を迎え減少し、兵庫物主力の販売となったが、高値悩みで荷動きは今ひとつ。北海物は何処の地区も生育順調で豊作型と聞いている。府県物の高値相場が続き、集荷・販売に苦労しているので、北海物の入荷で落ち着いた値頃で販売したい。昨今では、北海物の入荷が近いとの情報が伝わっているのに兵庫物は高すぎる。既に、北海物が一部入荷しているが、球流れはL大中心で、価格は¥2,800~2,600である。

大阪本場

大阪市中心卸売市場本場の6月の玉葱の販売量は3,188トン前年比90%(前月比94%)、前年比、前月比とも減となっている。産地別の販売量は、兵庫物が2,417トン前年比100%(前月比129%)、占有率76%前年比8ポイントアップ。佐賀が344トン前年比52%(前月比38%)、占有率11%前年比16ポイントダウン。愛媛物が156トンで前年比130%、占有率5%前年比2ポイントアップ。大阪物が127トン前年比88%、占有率4%前年も4%で同じ。北海物が80トン前年比56%。総平均単価はkg¥162前年比171%(前月比133%)で、前年比、前月比でともに高値となっている。産地別の平均単価は、兵庫物はkg¥169前年比173%。佐賀物はkg¥150前年比161%、愛媛物はkg¥115前年比170%。大阪物はkg¥145前年比192%。北海物はkg¥133前年比132%となっている。

7月に入って、高値悩みで市場内の売行きは今ひとつだが、転送需要が旺盛で、特に、品質的に安定している兵庫物に注文が集中している。割安の愛媛物は業務・加工筋に捌けている。昨今では、兵庫物の10kgの動きが重い。北海物の入荷が始まり、市況は軟調に転じている。

7月1日～20日までの玉葱の販売量は2,412トン前年比118%(前月比108%)。平均単価はkg¥165前年比149%(前月比139%)。産地別の販売量と平均単価は、兵庫物は2,000トン前年比116%、平均単価はkg¥171前年比151%。愛媛物は106トン前年比113%、平均単価はkg¥125前年比169%。佐賀物は69トン前年比63%、平均単価はkg¥179前年比149%。となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の6月の玉葱販売量は1,953トン前年比88%(前月比81%)で、前年比、前月比とも大幅減となっている。主力は佐賀物で、販売量は1,470トン前年比94%、占有率75%前年比4ポイントアップ。中國物が140トン前年比111%、占有率7%前年比1ポイントダウン。長崎物が125トンで前年比65%、占有率6%前年比3ポイントダウン。北海物が117トン前年比60%、占有率6%前年比3ポイントダウン。総平均単価はkg¥136前年比153%(前月比123%)。産地別の平均単価は佐賀物がkg¥142前年比160%。中國物がkg¥92前年比96%。長崎物がkg¥109前年比143%。北海物がkg¥98前年比102%。となっている。

7月に入ってからは、佐賀物主力の販売だが、高値で傷みがありクレームの発生が多く、苦しい販売を続けている。他産地物は品質的には佐賀より品質が良く安心できるものの、少量で対応出来ない。北海物は生育順調

で豊作型で、例年より1週間程度早い入荷になると聞いている。昨今では、玉葱は入荷が少ないものの、売れ行きも今ひとつである。北海物の連続入荷は8月からと聞いているが、価格的にはL大・L¥3,000前後を予想している。

7月1日～20日の玉葱の販売量は1,299トン前年比106%(前月比98%)で前年比増、前月比減となっている。平均単価はkg¥157前年比138%(前月比119%)で前年比前月比でとも高値となっている。

7月26日(金)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 販売量122トン 弱保合

北 海 20kgNT2L¥2,300～2,200 L大¥2,300～2,200、L¥2,100～2,000、
M¥2,000～1,800。

【太田市場】 販売量175トン 弱い

佐 賀 20kgDB2L¥3,500～3,400、L¥4,000～3,800、M¥3,800～3,600。
兵 庫 20kgDB2L¥3,600～3,500、L¥4,200～3,900、M¥4,000～3,800。

【名古屋北部市場】 販売量260トン 弱い

兵 庫 20kgDB2L¥3,500～3,300、L¥3,800～3,600、M¥3,700～3,600。

【大阪本場】 販売量144トン 保合

北 海 20kgDB2L¥2,900～2,800、L大¥3,000～2,900、L¥2,800～2,700。
兵 庫 20kgDB2L¥3,400～3,200、L¥3,800～3,500、M¥3,800～3,500。
兵 庫 10kgDB2L¥1,700～1,500、L¥1,900～1,700、M¥1,800～1,600。

【福岡市場】 販売量110トン 強保合

佐 賀 20kgDB2L¥3,500～3,000、L¥4,000～3,500、M¥4,000～3,800。

供給(産地)の動き

7月に入り、6月に続き玉葱市況は尻高傾向が続いている。特に産地在庫が少なく、佐賀物は病害の発生でロス率が高い。白石JAが、除湿乾燥品の販売値をレギュラー品の¥200高を要請し、卸各社が追随したことがきっかけで、じり高相場となった。兵庫・佐賀の主力産地を始めいずれの産地も市況高を受けて出荷は前進化し、現在の産地在庫は近年になく少ない。産地関係者の多くは、現状の高値市況は、北海物が出回るまでと見ている。

府県産地

佐賀、除湿乾燥物を始め、青切り出荷はほぼ終了した。吊り玉は年々減少傾向にあるが、今年は特に少ない。今年は品質に不安があるため、出荷は盆前には終了する。今年の玉葱栽培の生産者は、早生物は収入増となったものの、中晩生は予想以上の高値市況が続いたが、高温多湿の天候で、病害多発により防除費や資材の高騰に加え、ロス率が高く、早生物に比べると手取りは少ない。との声が高い。次シーズンには多少の作付増が期待されるが、中晩生の増反は期待出来ない。

兵庫、6～7月市況は、予想外の高値で出荷は前進化した。作柄は前年比75～80%に拘わらず、現在までのJAの出荷量は前年を上回ると言う。淡路の産地では、値決めの主力はJAは販売後、商系は集荷前となっている。今年のような、じり高市況の年は後決めが前決めより高値となる。従って生産者手取りはJAの価格が商系より高く、集荷増となった可能性がある。7月末の在庫量は前年よりもかなり少ない。冷蔵物は8月末の集計値が目安となるが、7月25日の中間発表では、入庫は705,000ケース前年比9

3%と報告されている。生産者の多くは、6、7月の市況高を反映して集荷場への持ち込みが集中し、商系のなかには即処理がし切れず、取り敢えず冷蔵庫に保管した品物が多いと言う。現在一時保管した物を厳選しながら出荷している商系が多い。

北海道産地

7月15日時点の道庁の出先機関の「たまねぎの生育状況」報告によると、空知(岩見沢)地区では、生育は平年よりやや前進化している。倒伏は平年より3日早い、草丈は83.3 cmで平年比5cm長い、葉数は8.8 枚で平年並み、葉鞘径20.1 mmで平年比やや太い、球径6.3 cmでやや大。上川(富良野)地区は、草丈88.9 cmで平年並み、葉数8.6 枚で平年比やや少ない、葉鞘径20.8 mmで平年並み、球径5.7 cmで平年比大。オホーツク(北見)地区は、生育はやや前進化、草丈93cmで平年並み、葉数9.3 枚で平年並み、葉鞘径22.2 mmで平年並み、球径5.2 cmで平年比やや大。と報告されている。

産地関係者からは、今年の作柄は全道的に豊作型と報告されている。

輸入動向

6月の輸入は速報値で、22, 652トン前年比118%。国内産の5月の出回り量が前年比大幅減となり、高値市況が続いたことで、輸入物への関心が深まり、前年を上回る輸入量となった。国別では、中国が21, 504トン前年比119%、(中国は、他に凍結物が2, 113トンある)。ニュージーランドが651トン前年比90%。オーストラリヤが496トン前年比136%。となっている。

中国、現在の産地は山東省で、天候不順で生産減と言われている。現在の日本向け価格は、剥き玉20kg、C&F・\$6.00。浜渡し原価 ¥1, 475、皮付き\$5.5であるが、産地は値上がり傾向にある。

ニュージーランド、日本向けの価格は、7～8cm、C&F・¥1,475、此の先夏場に向けたリーファ積となれば¥200高の¥1,675となる。

8月の市況見通し

府県産地の7月末までの出荷量は、前年比20～25%減と予想されていたが、市況高を反映していずれの産地の出荷も前進化し、7月末の在庫量は予想をかなり下回っている。此の先、順次北海物の販売に切り替わるが、豊作を予想されている北海物の出回りで、市況は軟化傾向に転じるものの、北海物も早生種は豊作であっても、中晩生の作柄の確定は時期尚早である。玉葱の作柄は、収穫前2週間の天候で変化する。北海玉葱は通常夏の冷涼な天候を好む。今年の様な顕著な高温が続く年は、要注意であり、中晩生の作柄は8月前半の天候に左右される。収穫時には豊作型予想が、平年作以下になる可能性も否定できない。

8月前半の市況は7月を下回るものの、L大・Lは¥3,000～2,500で推移すると予想している。野菜は収穫直前の天候が作柄に大きく影響する。安易な楽観は禁物である。（笹野敏和記）